

令和4年度 スポーツ施策の進捗状況 (重点施策)

○第2期スポーツ推進計画の総括評価基準

評価区分	達成状況
S	数値目標の達成率が110%以上のもの
A	〃 100%以上のもの
B	〃 80%以上のもの
C	〃 60%以上のもの
D	〃 60%未満のもの

令和4年12月末時点

施策の柱 1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	(1) 新たなスポーツ推進体制による持続可能な地域スポーツの推進	主要な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ機会の拡充に向けた地域スポーツの拠点づくり ・地域のニーズに応じたスポーツ機会の拡充
事業概要	地域スポーツハブ展開事業 総合型地域スポーツクラブ等が地域のスポーツ活動の拠点「地域スポーツハブ」を担い、地域のニーズに応じて行う公益的なスポーツ活動を支援する		

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ●県内各地において、地域のスポーツ活動拠点が機能しスポーツ環境が整っている ●各地域スポーツハブ内におけるスポーツ活動数が増加している ●地域スポーツコーディネーター等育成塾の受講者数が増加している 	①地域スポーツハブ設置数：11団体 ②立ち上げから3年後のスポーツ活動数が立ち上げ年度比で20%増加している ③広域を対象とした取組が増加している ④地域スポーツコーディネーター等育成塾の受講者数が増加している

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	課題								
<table border="1"> <tr> <td>①地域スポーツハブ設置数：9団体</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>②地域スポーツハブ内におけるスポーツ活動数（初年度→3年後） 南国市（4→6）、土佐市（8→9）、土佐清水市（12→11）、室戸市（6→7）、香南市（6→10）</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>③広域を対象とした取組数：（初年）0→（R4）10</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>④地域スポーツコーディネーター等育成塾等の受講者数：（初年）7→（R4）42</td> <td>A</td> </tr> </table>	①地域スポーツハブ設置数：9団体	B	②地域スポーツハブ内におけるスポーツ活動数（初年度→3年後） 南国市（4→6）、土佐市（8→9）、土佐清水市（12→11）、室戸市（6→7）、香南市（6→10）	A	③広域を対象とした取組数：（初年）0→（R4）10	A	④地域スポーツコーディネーター等育成塾等の受講者数：（初年）7→（R4）42	A	<ul style="list-style-type: none"> ●ハブ同士の連携による広域を対象とした取組は増えてきたが、活動エリア自体は拠点のある市町に留まっており、拠点周辺の広域エリアには広がっていない ●多分野のメンバーで構成されるハブの促進委員会において、地域のニーズや課題に応じたスポーツ活動が実施されているが、拠点の市町のメンバーが多く、広域のニーズ・課題を捉えきれていない ●スポーツを取り巻く課題や環境は多様化しており、地域の実情に応じた柔軟な対策が実施できる仕組みや体制が必要
①地域スポーツハブ設置数：9団体	B								
②地域スポーツハブ内におけるスポーツ活動数（初年度→3年後） 南国市（4→6）、土佐市（8→9）、土佐清水市（12→11）、室戸市（6→7）、香南市（6→10）	A								
③広域を対象とした取組数：（初年）0→（R4）10	A								
④地域スポーツコーディネーター等育成塾等の受講者数：（初年）7→（R4）42	A								

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）	D 取り組み状況
<p>地域スポーツハブの機能の充実及び継続に向けた支援</p> <p>(1) 地域スポーツ促進委員会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な事業や地域部活動、障害者スポーツ等の公益性の高い活動の実施につなげるための提案及び助言（拠点以外の市町村のニーズ・課題とのマッチング等） ・ハブの横の繋がりを活かした事業活動の実施 ・リモートスポーツパッケージの有効活用に向けた提案及び助言 ※リモートスポーツパッケージ：県立施設や地域の拠点に配置したリモート機器一式 ・県助成終了後の事業活動継続に向けた検討の依頼 <p>(2) 地域スポーツコーディネーターの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツコーディネーター等育成塾の開催（計6回） ・地域スポーツコーディネーター情報交換会へ参加（計2回） ・リモートスポーツパッケージ情報交換会の開催（計2回） <p>(3) 地域スポーツハブ機能の充実・発展に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハブ事業活動の周知（地域単位での意見交換会の実施） ・子どものスポーツ活動が継続できるような制度設計の検討 ・ハブ事業者との個別協議 ・県内34市町村との個別協議 →拠点9市町に対して新たな事業での子どものスポーツ活動継続を説明 →訪問の機会を捉え、市町村毎にニーズ・課題の抽出、投げかけ 	<p>(1) 地域スポーツハブ促進委員会への参加 計16回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動の実施件数（R4.12月末時点） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> （南国市（11）、土佐市（15）、土佐清水市（12）、室戸市（9）、香南市（7）、四万十町（7）、安芸市（9）、宿毛市（4）、須崎市（8）） </div> <p>※内、広域の取組：10件</p> <p>(2) 地域スポーツコーディネーター育成塾 計3回</p> <p>（参加者数※：42人（市町村行政職員は除く））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回地域スポーツに関する意見交換会（5/24～5/27） →4ブロック（安芸、物部川・嶺北・仁淀川・高知市、高幡、幡多） 対象者：地域スポーツコーディネーター、（新）市町村担当者 ・第2回地域スポーツに関する意見交換会（7/25～7/29） →5ブロック（安芸、物部川・嶺北、仁淀川・高知市、高幡、幡多） 対象者：市町村行政職員（学校教育、社会体育担当等） ・ユニバーサルビーチに関する勉強会 対象者：大阪体育大学学生、高知県スポーツコミッション職員 <p>(3) 地域スポーツハブ機能の充実・発展に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月開催の市町村との意見交換会において、9ハブの今年度事業活動を周知（<u>拠点以外の市町村への活動周知による広域のマッチング促進</u>） ※2件マッチングにより広域の活動が促進（南国市、室戸市） ・地域スポーツハブ事業者との個別協議（10/17～10/28、12/13） <p>[関連事業（部活動の地域移行の検討）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県における部活動地域移行検討会議（以下、「検討会」） ・県内34市町村とのリモート協議（8/23～9/1） →部活動地域移行も絡めた意見交換の実施 ・第1回検討会議幹事会（9/27） ・第2回検討会議幹事会（10/26） ・県内34市町村との個別協議（11/16～11/30） →拠点9市町については、第3期高知県スポーツ推進計画における新たな事業において、スポーツハブ事業で取り組んでいる「子どものスポーツ活動」が継続できる旨の説明の実施 →あわせて、市町村毎に子どものスポーツを取り巻く環境を整理し、個別協議時に投げかけを実施

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）

(4) 新たなスポーツ推進体制との連携による活動の充実

- ・一般社団法人高知県スポーツコミッションとの連携による活動の実施
- ・大阪体育大学との連携協定を活用した事業活動の推進
- ・大阪体育大学の連携協定を事例とした新たな連携先の検討

D 取り組み状況

(4) 新たなスポーツ推進体制との連携による活動の充実

【高知県スポーツコミッションとの連携】

- ・高知県スポーツコミッションの国補助事業採択（5月）
- 5月開催の市町村との意見交換会において、県内34市町村及びハブ受託事業者へ高知県スポーツコミッションを紹介（講師として招聘）
- ・総合型クラブと高知県スポーツコミッションの連携による取組：3件（香南市2件、南国市1件）
- ・高知県スポーツコミッションの国補助事業交付決定（8/23）
- ・令和5年度事業に関する意見交換の実施（10/2、11/23、12/14）

【大阪体育大学との連携】

- ・大阪体育大学との活動実施に向けたリモート協議 計2回（5月）
- ・大阪体育大学へ訪問し、今年度実施事業についての調整（6/29）
- ・大阪体育大学体育実技研究部の合宿受入（8/9～8/11）
- 総合型クラブとの連携：2件（南国市・香南市）
- 県内小学生を対象に運動指導を実施
- ・大阪体育大学ゼミ生の合宿受入れ（12/2～12/4）
- スポーツ推進委員研修会での講演、実技指導を実施
- くろしおキッズスペシャルプログラム及び選考会へ参加

A 見えてきた課題に対する改善策

- 意見交換会の機会を捉えた広域のマッチング推進
- 令和3年度に調査・整理した市町村別個票を活用し、市町村別にニーズ・課題の抽出、投げかけ
- ハブ事業の活動継続に向けた投げかけ（促進委員会での議論等）
- 第3期高知県スポーツ推進計画における新たな事業において、子どものスポーツ活動については継続できるような手立てを検討
- 高知県スポーツコミッションの協力を得て新たな連携先を検討

C 見えてきた課題

- ハブの拠点以外の市町村において、地域スポーツの課題解決につながる取組が推進するよう、地域スポーツハブや高知県スポーツコミッションとのつなぎや取組の後押しが必要
- ハブへの補助終了後を見据え、ハブの機能（他分野の関係者が連携する機会）や事業活動の継続について検討が必要
- 運動部活動の受け皿づくりをはじめ、多様化する課題への対応が必要

見直しの方向性

- 地域スポーツハブ展開事業の見直し**
 - 地域スポーツハブ事業は令和4年度を持って一区切りとし、各ハブで展開している事業は新たな県事業や市町村の補助、受益者負担等で継続を検討
 - 令和5年度からは、特に課題の多い「子どものスポーツ活動」について、部活動地域移行を含めて重点的に取り組む
- 身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充**
 - 新たなスポーツサークルの立ち上げや運動部活動の地域移行など、市町村における子どものスポーツ環境づくりの推進
 - 子どものスポーツ環境づくりに向けて、市町村ごとに課題に対応する体制づくり及び高知県スポーツコミッション等の連携した広域で取り組む体制づくりの推進

施策の柱 **1** スポーツ参加の拡大

施策の方向性	(1) 新たなスポーツ推進体制による持続可能な地域スポーツの推進	主要な取り組み	●スポーツ機会の拡充に向けた地域スポーツの拠点づくり ・特別支援学校等と連携とした障害者スポーツの推進				
事業概要	障害者スポーツ推進プロジェクト(スポーツ庁委託事業等) 特別支援学校やスポーツ団体等と連携し、障害者スポーツ情報の効果的な収集・発信・共有体制を構築するとともに、特別支援学校を中心に多様な関係者が連携して、在校生や卒業生、地域住民など誰もが参加できるスポーツ機会を提供する						
令和4年度末の目指す姿	●障害者が地域の身近な場所でスポーツに参加しやすい仕組みを構築した団体等が増えている。						
令和4年度の到達目標	①仕組みを構築した団体等：7団体 ②仕組みを構築した団体・地域において、障害者が参加できるスポーツ教室が2つ以上できている						
R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	<table border="1"> <tr> <td>①仕組みを構築した団体等：6団体(地域スポーツハブ5拠点)/目標7団体</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>②障害者が参加できるスポーツ教室が2つ以上できている団体→5団体</td> <td>A</td> </tr> </table>		①仕組みを構築した団体等：6団体(地域スポーツハブ5拠点)/目標7団体	B	②障害者が参加できるスポーツ教室が2つ以上できている団体→5団体	A	課題
①仕組みを構築した団体等：6団体(地域スポーツハブ5拠点)/目標7団体	B						
②障害者が参加できるスポーツ教室が2つ以上できている団体→5団体	A						
		●新たな種目の実施のため、地域ニーズに応じた取組を関係者の連携を強化し検討する必要がある ●学校など教育の場や子どもたちが集まるスポーツ活動に、パラリンピアンによる講演、体験会等スポーツを知る、見る、体験する機会の提供が必要					

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画(今後の取り組み予定)	D 取り組み状況
<p>(1) 特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組</p> <p>①関係者検討会議 パラリンピアン派遣連携団体等との実施プログラム等の検討、実施後の検証の場 実施時期：7月、10月、2月(計3回)</p> <p>②パラリンピアンによる講演会・体験会 実施時期：8月、10月、12月、1月(計4回) 想定参加数：40人/回</p> <p>(2) マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組</p> <p>①障害者スポーツ関係者検討会議 ・地域の多種多様な業種の委員が参画し、地域における障害者のスポーツ活動を支える基盤づくりとそれを自主的に継続させるための検討・検証を行う会議 ・実施時期：7月(2回)、9月(計3回)</p> <p>②パラリンピアンによる講演会と体験会 ・実施時期：7月(1回)</p> <p>③ユニバーサルビーチの設営と海水浴体験 ・実施時期：7月～8月(4回)</p>	<p>(1) 特別支援学校と連携したスポーツ参加の「きっかけ」創出の取組</p> <p>・検討委員会立ち上げ準備(6月) ※構成メンバー13名(学識経験者、特別支援学校、地域スポーツハブ、スポーツ推進委員等) コロナにより検討会議、講演会・体験会日程を以下に見直し</p> <p>①関係者検討会議 実施時期：2月(予定)</p> <p>②パラリンピアンによる講演会・体験会 実施時期： ・<u>県立盲学校にてパラリンピアンによる講演・体験会実施(12/2)</u> ・<u>県立中村特別支援学校での講演・体験会を調整中(2/9予定)</u></p> <p>(2) マリンスポーツを通じた障害者のスポーツ参加の拡大への取組</p> <p>・ユニバーサルビーチプロジェクト勉強会実施(6/19) ※参加者20名(須磨UBP、YASU、香南市、観光協会、民間企業、報道関係者等)</p> <p>①関係者検討会議 1回目(6/19)ユニバーサルビーチ進行確認 2回目(7/20)7/17講演会・体験会の反省と次回打ち合わせ 3回目(10/12)活動評価、次年度に向けた取組の検討</p> <p>②パラリンピアンによる講演会と体験会 7/17 小松沙季選手講演、ユニバーサルビーチ体験会 高知中央高校、学生、一般海水浴客参加</p> <p>③ユニバーサルビーチの設営と海水浴体験 1回目(7/17)運営15名(学生ボランティア含む) ・参加者30名程 高知中央高校学生 アビリティキッズ高知生徒(発達障害) 一般海水浴客(障害児1名と家族)</p> <p>2回目(8/13)運営10名(民間企業ボランティア含む) 参加者4名 一般海水浴客(健常者のみ)</p> <p>3回目(8/28)→コロナ感染症拡大防止のため中止</p>
A 見えてきた課題に対する改善策	C 見えてきた課題
<p>●多様な障害種別に対応したスポーツ機会の拡充のため、多様な関係者と連携し、地域における取組を検討する。</p> <p>●多様な主体と連携して地域におけるスポーツ機会を提供する取組の拡充を検討</p>	<p>●<u>視覚障害者のスポーツに関する理解啓発の取組が不足している。</u></p> <p>●<u>障害者が気軽に参加できるスポーツ機会が少ない。</u></p>
見直しの方向性	<p>■身近な地域におけるスポーツ機会の拡充</p> <p>○既存のスポーツ活動への障害者の受け入れを促進</p> <p>○学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者が気軽に参加できるスポーツ機会の提供</p> <p>○県立スポーツ施設等への障害者スポーツ用具の配置及び用具の貸し出しによるスポーツ機会の拡充</p> <p>○親子で楽しめる運動プログラムやパラリンピアンなどによる講演及びスポーツ教室の実施</p> <p>○障害の有無に関わらず誰もが参加できるパラスポーツ体験会の開催</p>

施策の柱 **1** スポーツ参加の拡大

施策の方向性	(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	主要な取り組み	●スポーツを「知る」「始める」機会の拡充 ・気軽にスポーツに親しむ機会の充実
事業概要	「始める」機会の拡充 障害の有無に関わらず誰もが親しみやすいスポーツ体験イベントの開催や県内企業の従業員を対象とした運動会の開催などにより、スポーツを「始める」機運の醸成を図る。また、地域スポーツクラブやスポーツ推進委員等によるスポーツ機会の提供により、スポーツを「始める」機会を拡充し、スポーツ参加の拡大につなげる		

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
●全ての年代においてスポーツの参加人口がH28年度より増加している	① 1週間の総合運動時間が60分未満の児童生徒の割合・全国平均値 ② 成人の週1回以上運動・スポーツの実施率：65%以上 ③ 高知県障害者スポーツ大会の参加者数：1,700人以上

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	課題
① 1週間の総合運動時間が60分未満の児童生徒の割合()は全国値 ・小5男：8.9% (8.8%) ・小5女：14.1% (14.4%) ・中2男：8.0% (7.8%) ・中2女：19.6% (18.1%) ② 成人の週1回以上運動・スポーツの実施率：(H28) 44.3% → (R3) 51% (「県民の健康・スポーツに関する意識調査」) ③ 高知県障害者スポーツ大会の参加者数：(H29) 1,471人 → (R4) 464人	●子どもたちの体力は、ほぼ全国水準に達しているが、生涯を通じたスポーツ活動の土台となる子どもの体力をさらに高める必要がある ●コロナ禍における子どもの体力の維持・向上に向けた取組のさらなる推進が必要である ●成人の週1回以上のスポーツの実施率は5割超に上昇したものの全国に比べて低い ●新型コロナウイルス感染症の影響で障害者のスポーツ参加機会が減少している

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画 (今後の取り組み予定)	D 取り組み状況
(1) 体験型イベントの開催 ① スポーツJAMフェスタ2022の開催 (10月中) ・プロポーザル公募 (6月上旬) ・イベント参加者のアンケート結果を分析、調査 (11月まで) ② 企業合同交流運動会の開催 (11月以降) ・健康増進・コミュニケーションの促進・企業間交流・企業のスポーツ活動の活性化やスポーツ参加の拡大 (2) スポーツ推進委員によるスポーツイベント(教室)の開催 ① 各地区におけるスポーツ推進委員の活動への支援 ・誰もが参加しやすいスポーツの普及に向けた事業計画を策定 ② スポーツイベント企画立案に向けた研修 ・県初任者研修会 (7月) ・県研修会 (12月) (3) 県民スポーツ月間によるスポーツ機運の醸成 ① テレビ・ラジオ・県広報誌「さんSUN高知」等での周知 (9月～) (4) インターネット等を活用した情報発信の強化 ① SNSやこうちスポーツNAVIによる情報発信 ・スポーツ課取り組みの積極的な発信 ⇒ 今後の予定 マッチングプログラム・くろしおキッズ・・・随時 青山学院大学によるランニングセミナー等 龍馬マラソン2023・・・随時 ② 動画やイベントの掲載等 ⇒ こうちスポーツNAVI関係団体へ情報発信の協力依頼	(1) 体験型イベントの開催 ① スポーツJAMフェスタ2022 合計 2,096名 【第1弾】 パラスポーツ、ラプソード体験等 1,815名 【第2弾】 親子向けイベント(連携イベント) 125名 【第3弾】 デジタル、子ども向け等(連携イベント) 96名 【第4弾】 子ども・若者向け 60名 (2) スポーツ推進委員によるスポーツイベント(教室)の開催 ① 各地区におけるスポーツ推進委員の活動への支援 ・ニュースポーツの普及に向け、スポーツ推進委員の活動拠点にスポーツ用具整備への助成(新規)→幡多地区へ助成(モルック×5セット)(9月) ② スポーツイベント企画立案に向けた研修 ・県初任者研修会 (講演・モルック等ニュースポーツの実技) ※7月30日実施 (40名参加) ・幡多地区スポーツ推進委員研修会 (モルック・ノルディックウォーキング) ※10月1日実施 (37名参加) ・県研修会 (講演・フリンゴ・A S E グループワーク) ※12月3日実施 (78名参加) ・香美・香南地区スポーツ推進委員研修会 (モルック等ニュースポーツの実技) ※12月10日実施 (27名参加) (3) 県民スポーツ月間によるスポーツ機運の醸成 ・県HPで各競技の最新情報を随時更新し発信 (4) インターネット等を活用した情報発信の強化 ① SNSやこうちスポーツNAVIによる情報発信 ・高知龍馬マラソン・高知FD・ジャパンサイクルリーグ公式戦高知大会 くろしおキッズ・フリーダムカップ2022 (車いすラグビー大会等) 等 ② 動画やイベントの掲載等 ・トップページへのオリ・パラ競技大会のレガシーの動画掲載 5件(6/6) (チェコ・シンガポール・オランダ・オーストラリア・トンガ) ※レビュー数 (月平均) ・6,423件 (11月末) (参考：R3年度 7,188件)

A 見えてきた課題に対する改善策	C 見えてきた課題
●スポーツ推進委員の活動を通じた誰もが参加できるスポーツの拡充 ●SNSを利用した情報発信の強化 ●イベントの周知に加えて取組の様子を発信(無関心層に関心をを持たす) ●高知県障害者スポーツ大会については、次年度の参加者増に向けて、大会の周知を強化するとともに、日常的な活動機会の拡充を図る	●子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず誰もが身近な地域で気軽にスポーツを楽しむことのできる環境づくりが必要 ●特にスポーツに無関心な層へのスポーツへの参加を促進する対策が必要 ●新型コロナウイルス感染症の影響で高知県障害者スポーツ大会の参加者が大きく減少した

見直し方向性	■体験型イベントの充実「スポーツJAMフェスタ2023」 ○特定の競技・種目に特化して体験できるイベントの実施 ○日頃体験できる機会が少ない内容の提供 (ダンス、BMX、デジタルコンテンツ (VR体験、HADO) 等) ■スポーツ推進委員による地域におけるスポーツイベントの拡充 ○スポーツ推進委員による多世代参加型のスポーツイベントの普及・充実 ■インターネット等を活用した情報発信の強化 ○県内のスポーツ関連情報を発信するサイト「こうちスポーツNAVI」の機能強化 ○県内各地にスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイト「スポるKOCHI」による情報発信及びプロモーションの実施
---------------	---

施策の柱 1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	主要な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における子どものスポーツ環境づくり ・スポーツの裾野拡大に向けた取り組みの充実 ・子どものスポーツ環境の充実に向けた取り組みへの支援
--------	--------------------------	---------	--

事業概要	地域における子どものスポーツ環境づくり 誰もが参加しやすいスポーツ体験会等の開催や、障害者スポーツセンターや地域のスポーツ拠点が子どものスポーツの空白を埋める取組、並びに地域のスポーツ指導者の育成を図る取組を支援する
------	--

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の児童・生徒が障害の有無に関係なく、いきいきと自分の適性に合ったスポーツに取り組む事ができている。 	①地域スポーツクラブ等による地域部活動の受け皿となる取組：8件 ②障害者が気軽にスポーツに参加できる仕組みを構築した団体等数：7団体 ③マッチングプログラムの参加者：1,420名 ④障害者が参加できるイベントや大会が増えている ⑤スタートコーチ資格取得者：100名 ⑥地域部活モデル事業等数：2件

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	
①地域スポーツクラブ等による地域部活動の受け皿となる取組：13件	S
②障害者が気軽にスポーツに参加できる仕組みを構築した団体等数：6団体	B
③マッチングプログラムの参加者：1,402名	B
④障害者が参加できるイベントや大会が増えている。	A
⑤スタートコーチ資格取得者：101名	A
⑥地域部活モデル事業等数：1件	D

課題
<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツの裾野の拡大や、子どものスポーツ実施につながる取り組みが必要 ● 人口減等により、運動部活動やスポーツ少年団などに所属する子どもが少なくなっており、今後の活動への影響が懸念される ● 高知市以外では特に団体競技において部活動数の減少が見られる ● 障害者が活動できるチームや団体は、高知市周辺に集中しており、障害児が身近な地域でスポーツ活動ができる環境が十分でない

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）
(1) スポーツの裾野拡大に向けた取組 ①運動やスポーツが好きな子どもを増やす取組の充実 <ul style="list-style-type: none"> ■ スポーツJAMフェスタ2022の開催（10月中） 目標集客人数：延べ3,000人 ■ 高知県パラスポーツシステム事業 マッチングプログラム（18回） 【実施時期】7月から2月末 ○ マッチングⅠ…親子で運動に親しむ。年中から小学3年生が対象 Ⅰ-1…日本トップリーグ機構主催『あそびバ!』を3地域で実施（340名） Ⅰ-2…対象年代にあった運動プログラムを3地域で実施（500名） ○ マッチングⅡ…自分に合った競技を見つける。小学3～6年生が対象 Ⅱ-1…スポーツ能力発見協会の体力測定会を2地域で実施（300名） Ⅱ-2…競技体験教室の実施。3地域で開催（180名） ○ マッチングⅢ…県民のニーズに応えた内容であり、R4年度より追加 Ⅲ-1…パラスポーツイベントを実施（100名） Ⅲ-2…中山間地域や学校をターゲットにスポーツ体験教室を6回実施（新規） ■ 指導者養成講習会の実施
(2) 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援 ①子どものスポーツの空白を埋めるための環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツクラブが実施する活動の周知 ・運動部活動地域移行の機会を捉えた子どものスポーツ環境の整備 ・新たなスポーツ推進体制との連携による活動の充実 →一般社団法人高知県スポーツコミッションとの連携による活動の実施 大阪体育大学との連携協定を活用した事業活動の推進

D 取り組み状況
(1) スポーツの裾野拡大に向けた取組 ①運動やスポーツが好きな子どもを増やす取組の充実 <ul style="list-style-type: none"> ■ スポーツJAMフェスタ 合計 2,096名 【第1弾】 パラスポーツ、ラプソード体験等 1,815名 【第2弾】 親子向けイベント（連携イベント） 125名 【第3弾】 デジタル、子ども向け等（連携イベント） 96名 【第4弾】 子ども・若者向け 60名 ■ マッチングプログラム 合計 1,402名 Ⅰ-1…「あそびバ!」 3回 234名 Ⅰ-2…「遊びの広場」 3回 455名 Ⅱ-1…「スポーツ能力測定会」 3回 208名 Ⅱ-2…「キッズスポーツ体験会」 3回 87名 ※マッチングプログラムⅠ・Ⅱは東部・中部・西部で1回ずつ開催 Ⅲ-1…「パラスポーツイベント」※スポーツJAMと連携 225名 Ⅲ-2…「出張スポーツ体験教室」 6回 193名 ■ 指導者養成講習会 ・スポーツ指導者研修会（6/5）72名参加（資格更新） ・スポーツ指導者研修会（11/6）36名参加（資格更新） ・日本スポーツ協会公認指導者養成講習会（バレーボールコーチ1） 12/17～1/8うち3日間予定
(2) 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援 ①子どものスポーツの空白を埋めるための環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・市町村との意見交換会（県内4ブロック）において、9ハブの今年度事業活動を周知（5月） →拠点以外の市町村への周知による広域のマッチング促進 ・高知県スポーツコミッションの国補助事業採択（5/10） →5月開催の市町村との意見交換会において、県内34市町村及び地域スポーツクラブ受託事業者へ高知県スポーツコミッションを紹介（講師として招聘） ・大阪体育大学とのリモート協議 計2回（5月） ・大阪体育大学へ訪問し、事業実施に向け調整（6/29） ・大阪体育大学体育実技研究部の合宿受け入れ（8/8～8/11） →県内小学生を対象に運動指導を実施 ・高知県スポーツコミッションの国補助事業交付決定（8/23） ・大阪体育大学ゼミ生の受入 →こうちくろしおキッズスペシャルプログラム、選考会に参加（12/4）

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）

②運動部活動の充実・継続ができる環境づくり【保健体育課】

- ・合同部活動の実施や地域部活動モデル事業の実施に向けた取組
- ・高等学校振興に向けた学校運動部活動の取組への支援
- ・国有識者会議の提言及び国ガイドライン等を踏まえた、高知県における部活動地域移行の必要性、課題、対応の方向性等の検討
→検討会議の実施、アンケート調査の実施 など

(3) 障害児のスポーツ機会の充実

①障害児が気軽にスポーツに参加できる環境づくり

- ・障害者スポーツセンターと連携した障害児のスポーツ環境づくり
- ・地域のスポーツ拠点等による障害児のスポーツ環境づくりへの支援

D 取り組み状況

→ (2) 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援

②運動部活動の充実・継続ができる環境づくり

- ・地域運動部活動推進事業
土佐清水市（中学校）再委託：5月
活動開始：5月（バドミントン、テニス）
- ・運動部活動指導員配置事業
運動部活動指導員の配置状況
市町村立中学校：32校79部（54名）
県立中学校：3校13部（8名）
高等学校：21校50部（48名）
研修会の実施
県立学校の配置に係る研修（オンデマンド研修）
- ・高知県における部活動地域移行検討会議（以下、「検討会」）
- ・県内34市町村とのリモート協議（8/23～9/1）
→部活動地域移行も絡めた意見交換の実施
- ・第1回検討会議幹事会（9/27）
- ・第2回検討会議幹事会（10/26）
→県内の児童生徒及び保護者（小5・6、中1・2を対象）、教職員を対象としたアンケート調査の実施
- ・県内34市町村との個別協議（11/16～11/30）
→あわせて、市町村毎に子どものスポーツを取り巻く環境を整理し、個別協議時に投げかけを実施

(3) 障害児のスポーツ機会の充実

①障害児が気軽にスポーツに参加できる環境づくり

- ・特別支援学校でのパラリンピアンによる講演会・体験会（調整中）
- ・地域スポーツに関する意見交換会において地域の障害者が参加できる活動を検討（1回）
- ・県立盲学校にてパラリンピアンによる講演・体験会実施（12/2）
- ・県立中村特別支援学校での講演・体験会を調整中（2/9予定）

A 見えてきた課題に対する改善策

- 今回の事例を多くの関係団体へ紹介、マスコミやSNSを活用し拡散
- 児童生徒、保護者、各市町村、学校関係者、地域の受け皿となる団体等からの意見を聞くとともに、地域の実情に応じた検討を進める
- 多様な障害種別に対応したスポーツ機会の拡充のため、多様な関係者と連携し、地域における取組を検討する
- 多様な主体と連携して地域におけるスポーツ機会を提供する取組の拡充を検討

C 見えてきた課題

- マッチング参加者の満足度は高いが、イベントの周知が不十分
- 運動部活動の地域移行については、市町村毎に地域の実情に応じた検討が円滑になされるよう、県としての方向性の整理が必要
- 視覚障害者のスポーツに関する理解啓発の取組が不足している
- 障害者が気軽に参加できるスポーツ機会が少ない

見直しの方向性

(1) スポーツの裾野拡大に向けた取組

- 体験型イベントの充実「スポーツJAMフェスタ2023」**
 - 特定の競技・種目に特化して体験できるイベントの実施
 - 日頃体験できる機会が少ない内容の提供（ダンス、BMX、デジタルコンテンツ（VR体験、HADO等））
- マッチングプログラムの充実**
 - ・回数増加（19回→21回）
 - ・イベント未実施の市町村での開催（R4：15市町村で実施）

(2) 子どものスポーツ環境の充実に向けた取組への支援

- 令和5年度からは、特に課題の多い「子どものスポーツ活動」について、部活動地域移行を含めて重点的に取り組む
- 身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充
 - ・新たなスポーツサークルの立ち上げや運動部活動の地域移行など、市町村における子どものスポーツ環境づくりの推進
 - ・子どものスポーツ環境づくりに向けて、市町村ごとに課題に対応する体制づくり及び高知県スポーツコミッション等の連携した広域で取り組む体制づくりの推進

(3) 障害児のスポーツ機会の充実

- 身近な地域におけるスポーツ機会の拡充**
 - 既存のスポーツ活動への障害者の受け入れを促進
 - 学校や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者が気軽に参加できるスポーツ機会の提供
 - 県立スポーツ施設等への障害者スポーツ用具の配置及び用具の貸し出しによるスポーツ機会の拡充
 - 親子で楽しめる運動プログラムやパラリンピアンなどによる講演及びスポーツ教室の実施
 - 障害の有無に関わらず誰もが参加できるパラスポーツ体験会の開催

施策の柱 1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	(3) 障害者のスポーツ参加機会の拡充	主要な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツの活動支援 ・障害者が参加しやすい環境づくり ・スポーツ情報の活用の充実 ・障害者スポーツの理解啓発の推進
事業概要	障害者スポーツ推進事業 高知県社会福祉協議会をはじめ、市町村やスポーツ団体、学校、福祉関係者など、障害者スポーツの関係者が連携する仕組みづくりやスポーツ機会の拡充を図ることにより、障害者が身近な地域で安心してスポーツに参加できる環境を創出する。また、障害者スポーツの理解啓発を進め、障害の有無に関わらず誰もが一緒にスポーツを楽しむことができる環境づくりにつなげる		
令和4年度末の目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ●(福) 高知県社会福祉協議会を中心に、関係団体等の支援が充実し、障害者のスポーツ活動が活性化している ●(福) 高知県社会福祉協議会や地域スポーツハブ等が、学校、競技団体、福祉関係者などと連携を図り、障害者がスポーツに参加しやすい環境が提供されている ●各拠点において新たな種目の実施など、障害者のニーズに応じた受け入れが充実する 		
令和4年度の到達目標	①中央競技団体への登録者数が前年度より増えている ②障害者が参加できるイベントや大会が増えている		
R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	①中央競技団体への登録者数が前年度より増えている (H29)192名→(H30)181名→(R1)177名→(R2)146名→(R3)171名→(R4)192名		B
	②障害者が参加した体験教室及びイベント等の活動数：5件		A
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域における障害者のスポーツ機会を増やすことが必要 ●障害者スポーツの理解促進が必要 ●障害の有無を問わないスポーツイベントが必要 		

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）	D 取り組み状況
<p>(1) 障害者スポーツの活動支援</p> <p>①地域スポーツ促進委員会（計20回程度）、意見交換会（年4回程度）にて各市町村、スポーツハブ等と連携し、地域ニーズに対応した活動を検討、実施する</p> <p>②障がい者スポーツ指導員の養成を嶺北及び中部地区で開催</p> <p>③高知県障害者スポーツ大会の開催</p> <p>④ユニバーサルイベントの開催（7～8月、12月）</p> <p>⑤車いすラグビー合宿誘致（12月）</p> <p>(2) 競技力向上支援</p> <p>①全国障害者スポーツ大会出場選手等へのNF登録コーディネート</p> <p>②強化指定選手に競技力向上研修を開催</p> <p>③競技性の高い取組への支援（6月～）</p> <p>(3) スポーツ情報の活用の充実</p> <p>①スポーツ教室やイベント、大会情報の発信</p> <p>②スポーツ大会の結果の収集・発信、メディアへのパラ選手等の情報提供</p> <p>③リモートを活用した会議・スポーツ教室（体操、ダンス、ヨガ）等の開催</p> <p>(4) 障害者スポーツの理解啓発の推進</p> <p>①総合型地域スポーツクラブと連携し、地域住民を対象とした障害者スポーツ等体験教室（20回程度/年）の開催</p> <p>②特別支援学校等においてパラリンピアンによる講演会、体験会を開催（4回）</p>	<p>(1) 障害者スポーツの活動支援</p> <p>①地域スポーツハブ促進委員会（9回/4月）開催 地域スポーツハブ意見交換会（1回/5月）開催</p> <p>②指導員養成事業委託契約締結（6月）</p> <p>③高知県障害者スポーツ大会の開催（5/21～5/29）（再掲） 参加総数：464人</p> <p>④障害者スポーツ実施環境構築支援事業（日本パラスポーツ協会委託事業）（新規） 地域スポーツハブ等（10箇所）に障害者スポーツ活動に必要な用具を整備するため申請書を提出（6/17） →事業の契約締結（9月）</p> <p>⑤車いすラグビー合宿誘致→関係者と調整（9月～）</p> <p>(2) 競技力向上支援 強化対象決定 特別強化（S指定3人、A指定6人）10/31にA指定2名追加 強化助成（団体競技7チーム、個人競技22人）</p> <p>(3) スポーツ情報の活用の充実</p> <p>①スポーツ教室やイベント、大会情報の発信 ・高知県障害者スポーツ大会開催の周知 ・ユニバーサルイベント（7～8月開催）の情報発信の準備</p> <p>②スポーツ大会の結果の収集・発信、メディアへのパラ選手等の情報提供 ・高知県障害者スポーツ大会結果を障害者スポーツセンターHPに掲載</p> <p>③ポツチャパラリンピアンによる講演・体験会の情報発信（企業HP掲載）</p> <p>(4) 障害者スポーツの理解啓発の推進</p> <p>①障害者スポーツセンターにおいて、ダンス教室、ウォーキング教室等開催</p> <p>②講演会、体験会の実施に向け実行委員会の設置準備中</p> <p>③ポツチャパラリンピアンによる講演・体験会実施（9/2～4）</p> <p>④県立盲学校にてパラリンピアンによる講演・体験会に大学生ボランティアが参加（12/2）</p>
A 見えてきた課題に対する改善策	C 見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ情報の発信を強化 ●地域毎の課題に応じた活動が県内に広がるよう、県、市町村、地域スポーツクラブ等の意見交換会を定期的に実施 ●障害者スポーツセンターを核とした障害者スポーツ支援の拡充を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020パラリンピック大会がもたらした県民の障害者スポーツへの関心の高まりをレガシーとして残すため、地域の障害者が気軽にスポーツに参加できる場の拡充が必要

見直しの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者スポーツの活動支援 ○障害者スポーツセンターを核として地域における障害者とスポーツ現場とをマッチングする取組の拡充及びサポートする人材の育成 ○全国や世界を目指す選手の支援の充実及び有望選手を発掘・育成する取り組みの実施 ○スポーツ情報の活用及び障害者スポーツの理解啓発のさらなる充実 ○障害者のスポーツ活動を支援する体制づくり
----------------	--

施策の柱 1 スポーツ参加の拡大

施策の方向性	(7) スポーツに親しむ場の確保	主要な取り組み	●リモートでスポーツ教室や研修等ができる環境の整備
--------	------------------	---------	---------------------------

事業概要	リモートによるスポーツサービスの提供 高知県スポーツ科学センターなど、県立のスポーツ施設や地域のスポーツ施設などを中心に、リモートによるスポーツ教室や実技指導の配信等を行うことができる環境を整備し、ウィズコロナ及びアフターコロナの社会におけるスポーツ活動を効果的に推進する
------	--

令和4年度末の目指す姿
◆ウィズコロナ及びアフターコロナの社会においても、県内各地でリモートを活用したスポーツサービスなどが提供され、時代に合ったスポーツ参加機会が拡充している

令和4年度の到達目標
①リモートによるスポーツ参加延べ人数：6,730人/年(地域スポーツハブ等10拠点)

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	
①リモートによるスポーツ参加延べ人数 ・地域スポーツハブ等（10拠点）：5,471人 ・県民体育館等のスポーツ施設：585人 合計6,056人	B

課題
●ウィズコロナ・アフターコロナ時代に対応した新たなスポーツ活動の形が徐々に広がっているが、その活動は機器を整備した施設に留まっている ●これまでスポーツ教室等を実施していなかった中山間地域等の遠隔地とリモートでつながることにより、スポーツ参加の拡大につなげる必要がある ●リモートスポーツ活動の好事例を横展開し、活用を促進する必要がある

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）
(1) リモートの活用 ①リモート活用スポーツ情報交換会の開催 ・市町村担当者会、育成塾等でリモート機器設置施設と取組内容について広報、情報共有を行う。 ②活用実績の定期確認（毎月） ③効果的なリモート機器の運用に関する研修会の開催
●リモート機器（拠点及びサテライト用）設置施設等 ①南国市立スポーツセンター ②土佐清水市立市民体育館 ③土佐市立市民体育館 ④宿毛市和田体育館 ⑤室戸勤労者体育センター ⑥野市総合体育館 ⑦安芸市体育館 ⑧四万十町窪川B & G海洋センター ⑨須崎市立スポーツセンター ⑩安並運動公園 ⑪県民体育館 ⑫県立武道館 ⑬県立弓道場 ⑭高知県スポーツ科学センター ⑮県立障害者スポーツセンター

D 取り組み状況																																																																																																												
(1) リモートの活用 ①リモート活用スポーツ情報交換会の開催 ・地域スポーツに関する意見交換会（5月） （対象）地域スポーツハブコーディネーター及び市町村担当者 ②RSP活用実績（延べ人数） ※総合型スポーツクラブの活動を含む [注：RSP = Remort Sports Packageの頭文字] （単位：人）																																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">リモート活動への参加人数（延べ人数）</th> </tr> <tr> <th>みる</th> <th>する</th> <th>ささえる</th> <th>小計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">4月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>815</td> <td>18</td> <td>833</td> <td rowspan="2">840</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>777</td> <td>51</td> <td>828</td> <td rowspan="2">862</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>34</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>899</td> <td>12</td> <td>911</td> <td rowspan="2">942</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>26</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>763</td> <td>31</td> <td>794</td> <td rowspan="2">857</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>15</td> <td>48</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>407</td> <td>13</td> <td>420</td> <td rowspan="2">465</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">9月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>251</td> <td>32</td> <td>283</td> <td rowspan="2">391</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>108</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">10月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>100</td> <td>615</td> <td>0</td> <td>715</td> <td rowspan="2">866</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>151</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">11月</td> <td>地域スポーツハブの取組※</td> <td>0</td> <td>677</td> <td>10</td> <td>687</td> <td rowspan="2">833</td> </tr> <tr> <td>施設の取組</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>146</td> <td>146</td> </tr> </tbody> </table>	月	区分	リモート活動への参加人数（延べ人数）					みる	する	ささえる	小計	合計	4月	地域スポーツハブの取組※	0	815	18	833	840	施設の取組	0	0	7	7	5月	地域スポーツハブの取組※	0	777	51	828	862	施設の取組	0	0	34	34	6月	地域スポーツハブの取組※	0	899	12	911	942	施設の取組	0	5	26	31	7月	地域スポーツハブの取組※	0	763	31	794	857	施設の取組	0	15	48	63	8月	地域スポーツハブの取組※	0	407	13	420	465	施設の取組	0	0	45	45	9月	地域スポーツハブの取組※	0	251	32	283	391	施設の取組	0	0	108	108	10月	地域スポーツハブの取組※	100	615	0	715	866	施設の取組	0	0	151	151	11月	地域スポーツハブの取組※	0	677	10	687	833	施設の取組	0	0	146	146
月			区分	リモート活動への参加人数（延べ人数）																																																																																																								
	みる	する		ささえる	小計	合計																																																																																																						
4月	地域スポーツハブの取組※	0	815	18	833	840																																																																																																						
	施設の取組	0	0	7	7																																																																																																							
5月	地域スポーツハブの取組※	0	777	51	828	862																																																																																																						
	施設の取組	0	0	34	34																																																																																																							
6月	地域スポーツハブの取組※	0	899	12	911	942																																																																																																						
	施設の取組	0	5	26	31																																																																																																							
7月	地域スポーツハブの取組※	0	763	31	794	857																																																																																																						
	施設の取組	0	15	48	63																																																																																																							
8月	地域スポーツハブの取組※	0	407	13	420	465																																																																																																						
	施設の取組	0	0	45	45																																																																																																							
9月	地域スポーツハブの取組※	0	251	32	283	391																																																																																																						
	施設の取組	0	0	108	108																																																																																																							
10月	地域スポーツハブの取組※	100	615	0	715	866																																																																																																						
	施設の取組	0	0	151	151																																																																																																							
11月	地域スポーツハブの取組※	0	677	10	687	833																																																																																																						
	施設の取組	0	0	146	146																																																																																																							

A 見えてきた課題に対する改善策
●リモート活用スポーツ情報交換会での設置施設間の情報共有や意見交換により、好事例の横展開を促進 ●市町村への活用のPRを強化 ●大学関係者や有識者からの助言による取組のブラッシュアップ ●県内での活用が広がる手立ての検討

C 見えてきた課題
●リモート機器の活用が施設や地域によって偏りがみられる

見直しの方向性	■リモートを活用したスポーツ活動の推進 ○総合型地域スポーツクラブ等がリモートを活用する取組を促進 ○大学等と連携したリモート活用に関する研修の実施 ○高知県スポーツ科学センターによるリモートを活用したスポーツ医科学研修やトレーニング指導等の充実
---------	---

施策の柱 **2** 競技力の向上

施策の方向性	(1) 新たなスポーツ推進体制による戦略的な競技力強化	主要な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●さらなる競技力向上に向けた強化 ●競技団体の実情に応じた効果的な強化 ●全高知チームによる重点強化 ●選手強化におけるPDCAの徹底
---------------	-----------------------------	----------------	--

事業概要	競技スポーツ選手育成強化事業 競技団体が各々の実情に応じて、効果的な強化や全高知チームによる重点強化、選手強化におけるPDCAの徹底を着実に進めていくことができるよう、県スポーツ協会が各競技団体を多方面からサポートすることを支援する		
-------------	--	--	--

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
●各競技団体に系統的な育成強化ができる体制が構築され、国民体育大会をはじめとする全国大会等で、安定した成績を残す競技団体が増加している	①国民体育大会入賞競技数：18競技団体

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	課題
①国民体育大会入賞競技数： (H29) 15競技団体→(H30) 10競技団体→ (R1) 10競技団体→(R4) 15競技団体 ※R2,R3は未開催	<ul style="list-style-type: none"> ●各競技団体の実状に応じた競技力の底上げが必要 ●ウィズコロナ・アフターコロナにおける活動の充実が必要

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画（今後の取り組み予定）	D 取り組み状況
(1) RPDCA（進捗管理シート）による競技力強化への支援 ・RPDCA（進捗管理シート）による各競技の実状に応じた育成・強化の充実（全競技） ・全高知チームによる重点強化（15競技） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 水泳、陸上、サッカー、柔道、剣道、ラグビー、レスリング、ソフトボール、卓球、ライフル射撃、バドミントン、カヌー、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール </div> (2) 各競技団体における組織運営（ガバナンス・コンプライアンス）の支援及び強化 (3) スポーツ医科学の活用 ①パフォーマンス向上支援事業 ・SSC活用強化策年間計画の作成及び進捗管理 ・SSC活用強化策利用競技団体を中心としたヒアリングの実施 ・体力測定、各種サポートの実施 ②研修・支援事業 ・競技別コーディネーター（各競技団体に配置している医科学担当者）の資質向上（年間2回の講習会） (4) 障害者スポーツにおける競技力向上支援 ①強化指定選手への支援 ②競技性の高い取組への支援	(1) RPDCA（進捗管理シート）に基づく競技力強化への支援 ・全高知チーム（15競技）の認定（4月） ・各競技団体の活動状況把握（ヒアリング・強化練習視察等） 4月：5競技、5月：30競技、6月：6競技 ・全高知チームによる強化練習 ・国民体育大会第43回四国ブロック大会視察及びヒアリング なぎなた競技【少年女子】（6/26高知市）…本大会出場 その他実施競技（7～8月） ・RPDCA第1期分提出（全40競技団体） ・国体会期前競技視察（9/10～15） ・本県競技視察（10/5～10） (2) 各競技団体における組織運営（ガバナンス・コンプライアンス）の支援及び強化 ・競技団体のガバナンスに関する説明会（3月予定） (3) スポーツ医科学の活用 ・SSC活用強化策年間計画の作成及び進捗管理 強化策活用競技団体：24団体 年間計画作成完了（5/13）変更申請（9月） ・SSC活用強化策利用競技団体を中心としたヒアリングの実施 ・体力測定、各種サポートの実施（実績は8月末現在） * 体力測定の実施 4月：132名 5月：106名 6月：149名 7月：164名 8月：40名 9月：59名 10月：141名 11月：183名 一般104名、専門870名） 合計974名 * 各種サポートの実施（外部サポートを含む） 4月：187名 5月：377名 6月：472名 7月：549名 8月：873名 9月：162名 10月：554名 11月：131名 ○コンディショニング2,368名（346回） ○栄養499名（23回） ○メンタル199名（23回） ○映像239名（9回） 合計：3,305名、401回 (4) 障害者スポーツにおける競技力向上支援 ①強化指定選手への支援 S指定3名 A指定6名（10/31にA指定2名追加） ②競技性の高い取組への支援 強化対象 団体：7団体、個人：22名
A 見えてきた課題に対する改善策	C 見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none"> ●次年度に向けた競技団体の育成計画の見直しを支援 ●スポーツ科学センターの体制の強化 ●全国や世界を目指す障害者への支援の在り方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●競技団体における組織的な選手育成・強化のさらなる充実が必要 ●スポーツ科学センターの受け入れ体制が不十分 ●障害者の競技活動へのさらなる支援が必要

見直しの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■さらなる競技力向上に向けた取組の強化 ○全国や世界を目指す選手の育成の強化○競技団体におけるRPDCAによるジュニア選手を中心とした組織的、計画的な取組の推進 ○スポーツ科学センターの体制の強化によるスポーツ医科学面からのサポートのさらなる充実 ○障害者スポーツにおける有望選手を発掘・育成する取組の推進及び活動を支援する体制の検討 ■スポーツ団体における適切なガバナンスの促進 ○競技団体やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど、スポーツ団体における適切なガバナンスの促進
----------------	--

施策の柱 **2** 競技力の向上

施策の方向性	(2) 系統立てた育成・強化体制の確立	主要な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●ジュニア選手育成 ●スポーツを知る・出会う機会の拡充【発掘】
---------------	---------------------	----------------	--

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県バスウェイシステム事業【マッチングプログラム（Ⅰ-1、Ⅰ-2、Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅲ-1、Ⅲ-2） 高知くろしおキッズ】 ●幼児から小学低学年の子どもへ運動やスポーツを行う機会を提供したり、小学中・高学年の児童へ自分に合った競技を見つめられる測定会やスポーツ体験会を実施するなど、体を動かす機会や専門的にスポーツを始める機会を提供する ●体力運動能力に優れた小学生を発掘し、運動能力を高めるトレーニングや競技プログラムを実施するなど、将来の有望選手を発掘・育成していく取り組み、併せて競技団体へつなげる活動も行う
-------------	--

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ●自分に合ったスポーツに出会う機会が増えている ●種目転向が円滑に行われている ●各競技団体において誰でも挑戦できるシステムが確立されている ●全国大会で優秀な成績を収める選手が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> ①マッチングプログラムの参加者：1,420名 ②キッズ応募者：180名以上 ③キッズの体力A判定：7割以上 ④キッズ修了生の国際大会出場者数：3名

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績								
<table border="1"> <tr> <td>①マッチングプログラムの参加者：1,402名</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td>②キッズ応募者が180名以上：145名</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td>③キッズの体力A判定：-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>④国際大会出場者：3名</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	①マッチングプログラムの参加者：1,402名	B	②キッズ応募者が180名以上：145名	B	③キッズの体力A判定：-	-	④国際大会出場者：3名	A
①マッチングプログラムの参加者：1,402名	B							
②キッズ応募者が180名以上：145名	B							
③キッズの体力A判定：-	-							
④国際大会出場者：3名	A							

課題
<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ体験教室の実施地域・回数の拡充（マッチングプログラム） ●広報活動の工夫及び強化（マッチングプログラム、くろしおキッズ） ●育成プログラムの質の充実（くろしおキッズ） ●修了生の追跡調査及びサポート（くろしおキッズ）

令和4年度の取り組み状況

P	当初計画（今後の取り組み予定）
(1) マッチングプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●定員：R3年度840名（参加者1,195名）⇒R4年度1,420名 ●回数：R3年度10回⇒R4年度18回 <p>【実施時期】9月末から11月末</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マッチングⅠ…親子で運動に親しむ。年中から小学3年生が対象 <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ-1…日本トップリーグ機構主催『あそびバ!』を3地域で実施（340名） Ⅰ-2…対象年代にあった運動プログラムを3地域で実施（500名） ○マッチングⅡ…自分に合った競技を見つける。小学3～6年生が対象 <ul style="list-style-type: none"> Ⅱ-1…スポーツ能力発見協会の体力測定会を2地域で実施（300名） Ⅱ-2…競技体験教室の実施。3地域で開催（180名） ○マッチングⅢ…県民のニーズに応えた内容であり、R4年度より追加 <ul style="list-style-type: none"> Ⅲ-1…パラスポーツイベントを実施（100名） Ⅲ-2…中山間地域や学校をターゲットにスポーツ体験教室を7回実施
(2) 高知くろしおキッズ	<ul style="list-style-type: none"> ●R4年度在籍数 キッズ：69名 <p>【実施回数】育成プログラム年間18回+2回（5年生は3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●競技プログラム（14回）全15競技 ●トレーニングプログラム・知的プログラム（4回） ●合宿プログラム（1回） ●スペシャルプログラム（1回） <p>⇒オリンピックや著名なスポーツ選手等による競技体験や講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ●四国交流プログラム（1回）※5年生のみ、愛媛県で開催予定 ⇒愛媛・香川のタレント生との競技体験プログラム（バレーボール） <p>①広報活動の工夫及び強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●くろしおキッズのユニフォームを作成・キッズへ提供 ●活動内容の定期的な情報発信（SNSの有効活用） ●キッズ及び修了生の大会成績等の情報共有・発信 <p>②育成プログラムの質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プログラム後、講師の具体的なフィードバック及び種目適性評価の実施 ●自宅でのトレーニングの充実（トレーニング動画の提供・資料の共有） ●プログラム検討会の実施 ●アンケートの実施（対象：キッズ、保護者、講師、関係者等）

D	取り組み状況														
(1) マッチングプログラム 合計 1,402名	<table border="1"> <tr> <td>Ⅰ-1…「あそびバ!」</td> <td style="text-align: right;">3回 234名</td> </tr> <tr> <td>Ⅰ-2…「遊びの広場」</td> <td style="text-align: right;">3回 455名</td> </tr> <tr> <td>Ⅱ-1…「スポーツ能力測定会」</td> <td style="text-align: right;">3回 208名</td> </tr> <tr> <td>Ⅱ-2…「キッズスポーツ体験会」</td> <td style="text-align: right;">3回 87名</td> </tr> <tr> <td>※マッチングプログラムⅠ・Ⅱは東部・中部・西部で1回ずつ開催</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ⅲ-1…「パラスポーツイベント」※スポーツJAMと連携</td> <td style="text-align: right;">225名</td> </tr> <tr> <td>Ⅲ-2…「出張スポーツ体験教室」</td> <td style="text-align: right;">6回 193名</td> </tr> </table>	Ⅰ-1…「あそびバ!」	3回 234名	Ⅰ-2…「遊びの広場」	3回 455名	Ⅱ-1…「スポーツ能力測定会」	3回 208名	Ⅱ-2…「キッズスポーツ体験会」	3回 87名	※マッチングプログラムⅠ・Ⅱは東部・中部・西部で1回ずつ開催		Ⅲ-1…「パラスポーツイベント」※スポーツJAMと連携	225名	Ⅲ-2…「出張スポーツ体験教室」	6回 193名
Ⅰ-1…「あそびバ!」	3回 234名														
Ⅰ-2…「遊びの広場」	3回 455名														
Ⅱ-1…「スポーツ能力測定会」	3回 208名														
Ⅱ-2…「キッズスポーツ体験会」	3回 87名														
※マッチングプログラムⅠ・Ⅱは東部・中部・西部で1回ずつ開催															
Ⅲ-1…「パラスポーツイベント」※スポーツJAMと連携	225名														
Ⅲ-2…「出張スポーツ体験教室」	6回 193名														
(2) 高知くろしおキッズ	<ul style="list-style-type: none"> ●開始 5/1（認定式） ●実施回数（12月末時点） <ul style="list-style-type: none"> ・4年生16回・5年生16回・6年生18回 ●実施種目（12月末時点）（計10種目） <ul style="list-style-type: none"> トランポリン/ダンス/ライフル射撃/飛び込み/ラグビー/ハンドボール/カヌー/セーリング/スポーツクライミング/体操/体力測定/ゴルフ/レスリング/フェンシング/バドミントン/面談 ・知的プログラム（栄養、話し方、コミュニケーション） ・トレーニングプログラム（3回） ・合宿プログラム（「スポーツと防災」をテーマに黒潮町で実施） ・特別プログラム（ライフル射撃・トランポリン選考会の実施） ・[四国ジュニアアスリートキャンプin愛媛]へ参加（5年生） <p>①広報活動の工夫及び強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プログラム後にSNSの活用をした情報発信（週1回程度） ●くろしおキッズのユニフォームの提供 <p>②プログラムの質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿題トレーニング・実施プログラムの動画配信・資料提供 ●インタビュー形式（動画）によるプログラムの振り返り ●第1回プログラム検討会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ●令和5年度高知くろしおキッズ選考会「ちゃれんじ1」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・中部地区 事前申込：103名 ・西部地区 事前申込：42名 														

A	見えてきた課題に対する改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●関係団体（競技団体、小学校等）へ事例紹介（マッチング） ●マスコミやSNSを活用し拡散（マッチング、キッズ） ●ちゃれんじの募集期間の見直し、体験会や説明会の実施（キッズ） ●各関係競技団体へのヒアリングにより、競技団体の意向や各地域の活動状況を把握し、効果的な競技転向につなげる

C	見えてきた課題
	<ul style="list-style-type: none"> ●マッチング参加者の満足度は高いが、イベントの周知が不十分 ●ちゃれんじ応募者数が減少 ●競技体験から競技転向に繋がる事例が少ない

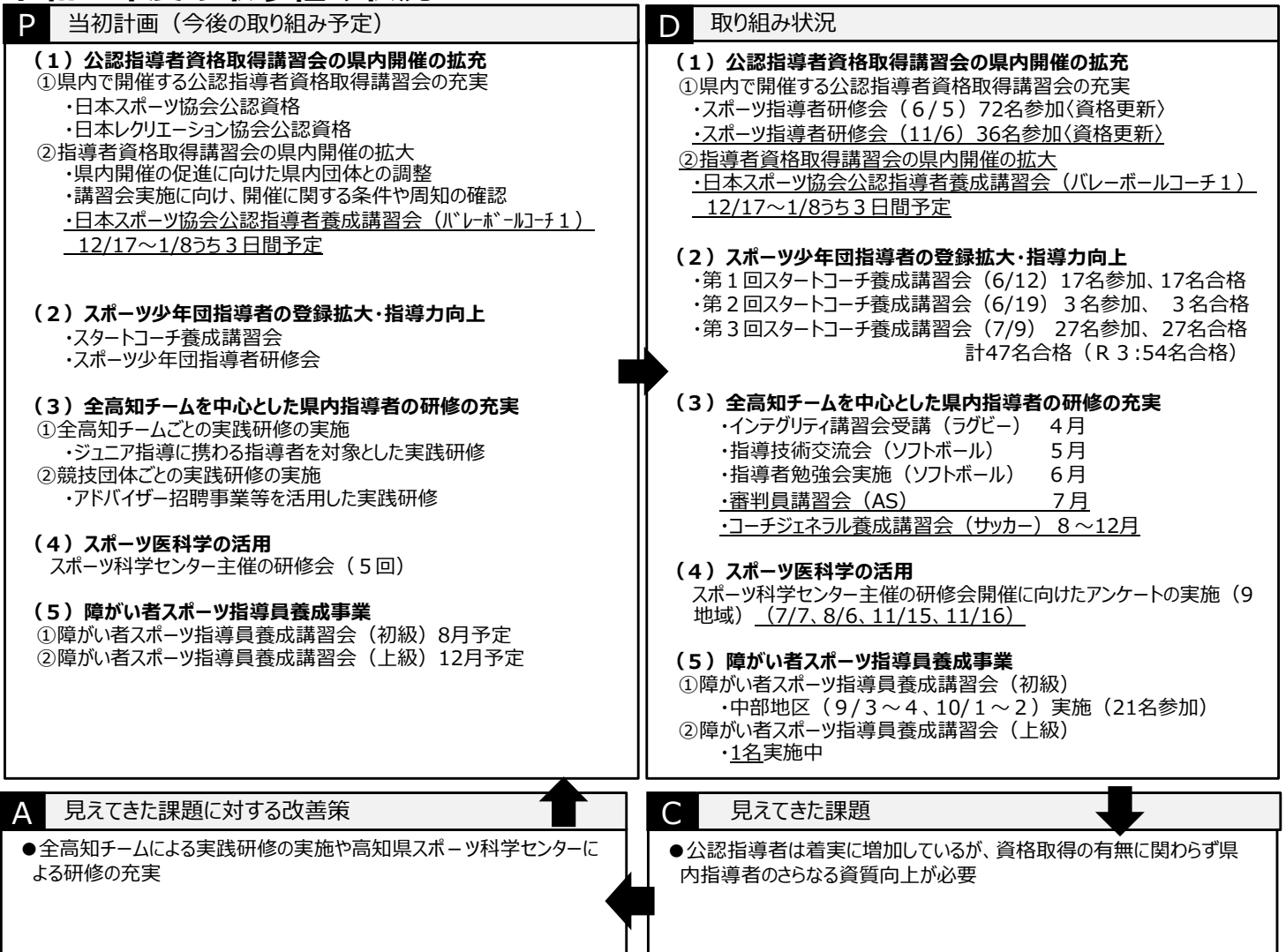
見直しの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●取組内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○マッチングプログラム・回数の増加（19回⇒21回） ○イベント未実施の市町村での開催（R4：15市町村で実施） ○くろしおキッズ・プログラム回数の増加（18回⇒21回） ○体験競技の追加（陸上、メンタル等） ○大阪体育大学との連携
----------------	--

施策の方向性	(3) 指導者等の育成及び受け入れの推進	主要な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●ジュニアに関わるスポーツ指導者の拡大及び指導力向上 ●ジュニアに関わるスポーツ指導者の拡大・指導力向上
事業概要	指導者育成事業（①公認スポーツ指導者資格養成講習会、②スタートコーチ養成講習会、③障がい者スポーツ指導員養成講習会等） スポーツ少年団をはじめ、総合型地域スポーツクラブ・学校運動部活動において、必要最低限度の知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する「スタートコーチ」など、公認スポーツ指導者資格取得者の増加を目的とする取り組みに対して支援する。また、スポーツ推進委員の研修や障害者スポーツの指導者の育成を行う		

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ●選手の年齢・発達段階・技術の習熟度等を踏まえた柔軟な指導力や科学的・合理的な指導力を有する質の高い指導者が増加している 	①日本スポーツ協会公認指導者数（スタートコーチ除く）：1,500名 ②スタートコーチ資格取得者：100名 ③日本パラスポーツ協会公認指導者数： 初級150名、中級75名、上級19名

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	課題						
<table border="1"> <tr> <td>①日本スポーツ協会公認指導者数（スタートコーチ除く）：1,371名</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td>②スタートコーチ資格取得者（R3年度から実施）101名</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> <tr> <td>③日本パラスポーツ協会公認指導者数 （初級132名 中級53名 上級18名）</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> </table>	①日本スポーツ協会公認指導者数（スタートコーチ除く）：1,371名	B	②スタートコーチ資格取得者（R3年度から実施）101名	A	③日本パラスポーツ協会公認指導者数 （初級132名 中級53名 上級18名）	B	<ul style="list-style-type: none"> ●さらなる資格取得者の増加を図る必要がある ●資格取得のための講習会は主に県外で開催されていることや、すべてのカリキュラムを終了するためには一定期間の受講が必要であるため、資格取得を目指す指導者の負担になっている
①日本スポーツ協会公認指導者数（スタートコーチ除く）：1,371名	B						
②スタートコーチ資格取得者（R3年度から実施）101名	A						
③日本パラスポーツ協会公認指導者数 （初級132名 中級53名 上級18名）	B						

令和4年度の取り組み状況



見直しの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■指導者の育成・確保の充実 ○有資格指導者のさらなる育成 ○スポーツ指導者を育成・マッチングする仕組みづくりの推進
----------------	---

施策の柱 **2** 競技力の向上

施策の方向性	(4) スポーツ医学の効果的な活用	主要な取り組み	●高知県スポーツ科学センター（SSC）によるスポーツ医学サポートの強化
---------------	-------------------	----------------	-------------------------------------

事業概要	<p>スポーツ科学センター管理運営委託事業</p> <p>スポーツ現場において行われる、競技力向上や健康の維持増進に向けた技術練習やトレーニングが、年齢、体力、競技特性に応じて、合理的かつ効率的に行われるよう、スポーツ医学の見地から様々なサポートを行う</p>
-------------	---

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
●選手にスポーツ医学のサポートが行き届き、効果的な育成・強化が図られている	①スポーツ医学担当者を配置し、組織的にスポーツ医学を活用している競技団体数：20団体 ②スポーツ医学を積極的に活用する競技団体が増加する：41団体 ③SSC利用者の増加：前年度比10%増 ④SSCの各種サポートを利用したアスリートが成果を実感している：アンケートによる実感率80%以上 ⑤県内のアスリートのスポーツ障害が減少している：メディカルチェック要再検査以上の割合が30%以下

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	課題										
<table border="1"> <tr> <td>①組織的に活用している団体数(担当者を配置して取り組んでいる団体):17団体</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>②積極的に活用する団体(専門体力測定と各種サポートの両方を活用している団体):18団体</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>③SSC利用者 体力測定 (R3) 548名⇒974名(約77%増) 各種サポート (R3) 1,031名⇒3,305名(約220%増)</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>④SSCの各種サポートを利用したアスリートが成果を実感している：-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>⑤県内のアスリートのスポーツ障害が減少している：-</td> <td>-</td> </tr> </table>	①組織的に活用している団体数(担当者を配置して取り組んでいる団体):17団体	B	②積極的に活用する団体(専門体力測定と各種サポートの両方を活用している団体):18団体	D	③SSC利用者 体力測定 (R3) 548名⇒974名(約77%増) 各種サポート (R3) 1,031名⇒3,305名(約220%増)	S	④SSCの各種サポートを利用したアスリートが成果を実感している：-	-	⑤県内のアスリートのスポーツ障害が減少している：-	-	●SSCスタッフのさらなる体制強化 ●アスリートを支援するサポートスタッフの育成及び資質の向上（外部スタッフ） ●競技団体による活用内容や頻度がまだ十分でない
①組織的に活用している団体数(担当者を配置して取り組んでいる団体):17団体	B										
②積極的に活用する団体(専門体力測定と各種サポートの両方を活用している団体):18団体	D										
③SSC利用者 体力測定 (R3) 548名⇒974名(約77%増) 各種サポート (R3) 1,031名⇒3,305名(約220%増)	S										
④SSCの各種サポートを利用したアスリートが成果を実感している：-	-										
⑤県内のアスリートのスポーツ障害が減少している：-	-										

令和4年度の取り組み状況



見直しの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ医学の効果的な活用の推進 ○競技団体のスポーツ医学の計画的な活用に向けたSSCによる支援拡充 ■高知県スポーツ科学センター(SSC)による研修内容の充実 ○競技団体等のニーズを踏まえた研修内容の充実 ○リモート等を活用した研修参加に係る負担の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ■高知県スポーツ科学センター(SSC)の体制強化 ○SSCスタッフの資格取得促進 ○SSCスタッフの増員 ○アスリートを支援する人材の育成及び連携強化
----------------	---	--

施策の方向性	(1) スポーツを通じた経済・地域の活性化	主要な取り組み	プロスポーツ、アマチュアスポーツの誘致
--------	-----------------------	---------	---------------------

事業概要	プロスポーツ、アマチュアスポーツのキャンプ・合宿、大会の誘致を行い、県民のスポーツに対する機運の醸成を図るとともに、競技力の向上、交流人口の拡大など経済・地域の活性化につなげる
------	--

令和4年度末の目指す姿
●プロスポーツ、アマチュアスポーツのキャンプ・合宿、大会等が、コロナ禍以前のように開催され観戦客も訪れ、経済・地域の活性化に繋がっている。

令和4年度の到達目標
①県外入込客数：14万人

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績						
(人、暦年)						
県外入込客数	H30	R1	R2	R3	R4(11月)	D
プロ	64,451	74,237	28,902	4,243	32,005	
アマ	4,891	4,406	2,364	2,633	2,773	
大会	21,094	19,653	8,808	4,752	14,150	
合計	90,436	98,296	40,074	11,628	48,928	

課題
<ul style="list-style-type: none"> ●withコロナにおけるキャンプ・合宿、大会の誘致 ●情報発信 (KVCA合宿助成金、県内スポーツ施設情報) の強化 ●県内スポーツ施設の幅広い活用、利用状況やニーズの把握 ●県内受入機関との連携、情報共有 ●県外入込客数の実績値の集計方法の見直し ●経済波及効果の把握

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画 (今後の取り組み予定)
<p>(1) プロスポーツの誘致活動</p> <p>① プロ野球、Jリーグ、ゴルフ、ラグビー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規チームを含めた誘致、受入体制強化に向けた関係機関との連携 <p>② サイクリング JCL (ジャパンサイクルリーグ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JCL高知大会の成功に向けた関係機関との連携 <p>③ 県内チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知FD、高知USCとホーム戦観戦者増等に向けた連携 <p>(2) アマチュアスポーツの誘致活動</p> <p>① ターゲット毎の誘致活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップチーム→直接訪問、アドバイザー等の活用 ・社会人、大学・高校生等のチーム→情報発信の強化 (KVCA助成金利用実績のあるチームへの案内メール、市町村や宿泊施設・スポーツ施設、県内競技団体、高校等の部活動監督等からの声かけ) →旅行会社を通じた誘致 →県外事務所との連携や他部局の事業を通じた情報発信 <p>② 関西戦略における誘致活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パナソニックとの「連携協力に関する協定締結」に基づくクラブチームへの誘致 ・大阪体育大学との「連携協力に関する協定締結」に基づく当大学クラブチームやOB・OGへの助成制度等の周知 ・阪神タイガースwomenの誘致活動 <p>(3) 県内受入機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村、スポーツ施設のニーズや状況把握、情報共有の仕組みづくり ・KVCAとの定例会開催 (月1~2回) →戦略、スケジュール、進捗状況、課題、ニーズ等の情報共有 <p>(4) 入込客数の集計方法の見直し、経済波及効果の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、経済波及効果を公表できるように入込客数を集計、分析
A 見えてきた課題に対する改善策
<ul style="list-style-type: none"> ●プロスポーツチームのキャンプ・大会の情報発信の強化 ●関西圏のアマチュアチームをターゲットとした誘致活動の継続 ●各市町と連携したスポーツツーリズム推進の強化
C 見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none"> ●プロスポーツキャンプ・大会が再開されてきたものの、県外入込客数がコロナ以前の状況には回復していない。 ●アマチュア合宿助成金 (KVCA) の活用実績は増加基調にあるものの、1件あたりの参加者が少なく、入込客数 (KPI) としては伸び悩んでいる。 ●アマチュア野球チームから春季合宿の問い合わせが数件あったが、条件に合う施設の確保が困難であった。

D 取り組み状況
<p>(1) プロスポーツの誘致活動</p> <p>① プロ野球、Jリーグ、ゴルフ、ラグビー</p> <p>〈プロ野球〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西武ライオンズ高知県フェア開催 (4/22)、阪神タイガース2軍高知県・安芸市フェア開催 (7/1)、千葉ロッテマリーンズ高知県フェア開催 (7/30)、オリックスバファローズ高知県・高知市フェア開催 (8/26)、阪神タイガース高知県・安芸市フェア開催 (9/13)、<u>阪神タイガース高知県・安芸市による連携協定締結 (9/13)</u>、<u>阪神タイガース秋季キャンプ(11/2~21)</u>、<u>オリックスバファローズ秋季キャンプ(11/4~18)</u> <p>〈ゴルフ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カシオワールドオープンゴルフ開催 (11/24~27) <p>〈ラグビー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンガサムライXV高知キャンプ (6/5~9) ・トンガ復興チャリティマッチ高知県ブース出展 (6/11) <p>② サイクリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JCL高知大会開催 (9/25) (県外入込数：約380名) ・Setouchi Velo協議会に参加 (10/29) <p>③ 県内チーム</p> <p>〈高知ファイティングドッグス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム戦における県外観戦者誘致に係る委託業務締結 (4/15)、庁内販売実施 (4/26、9/16)、前期優秀選手表彰 (6/27)、<u>2022年シーズン最優秀選手表彰 (11/7)</u> <p>〈高知ユナイテッドSCとの連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム戦における観戦者誘致に係る委託業務締結 (4/15)、庁内販売実施 (8/8) ・高知ユナイテッドSCのJ3昇格に向けた支援 →施設整備に関する関係機関協議 (公園下水道課 他) →Jリーグが「J3クラブライセンス」を認定 (9/27) <p>(2) アマチュアスポーツの誘致活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KVCAと連携し誘致の取り組みをテコ入れ →過去2~3年に合宿助成金 (KVCA) を利用した団体へ合宿案内を送付 (合宿リピーターの誘致) →関西の旅行会社への助成制度の説明などのセールス →商工労働部のパイプを活用した関西の大学への案内及び大阪事務所と連携したフォローアップ 〔※ 助成金実績 (R4.1月~11月) : 申請68件、実績55件〕 参考：R3年1月~11月：申請77件、実績16件 ・大阪体育大学 (協定締結) のクラブチームの誘致 <p>(3) 県内受入機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KVCAとの定例会を開始、市町村の取組状況等をヒアリング <p>(4) 入込客数の集計方法の見直し、経済波及効果の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村と連携した集計などKVCAと継続的な協議を実施

見直しの方向性	<p>■多様な関係者と連携した誘致強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ターゲットを絞った誘致のさらなる強化 ○全国や海外から参加が得られるスポーツ大会の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村と連携したスポーツツーリズムの推進 ○WEBサイトを活用した情報発信の強化
---------	---	--

施策の柱 **3** スポーツを通じた
活力ある県づくり

高知県スポーツ振興の
強化ポイント

P54
P55

事業実施計画

P94

施策の方向性	(1) スポーツを通じた経済・地域の活性化	主要な取り組み	・自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進 ・高知龍馬マラソンの開催
---------------	-----------------------	----------------	--

事業概要	・本県の自然環境を生かしたスポーツツーリズムを推進し、県民のスポーツに対する機運の醸成を図るとともに、競技力の向上、交流人口の拡大など経済・地域の活性化につなげる ・高知龍馬マラソンを通じて、県民のスポーツや健康への関心を高め、生涯スポーツのより一層の普及・振興及びスポーツツーリズムの推進を図る
-------------	---

令和4年度末の目指す姿	令和4年度の到達目標
●本県の自然環境を生かしたスポーツが広く認知され、経済・地域の活性化に繋がっている ●高知龍馬マラソン2023の1万人規模の開催	①県外入込客数：14万人

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	課題																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>県外入込客数</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4 (11月)</th> <th rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自然環境を生かしたスポーツツーリズム(暦年)</td> <td>18,486</td> <td>18,021</td> <td>5,503</td> <td>2,637</td> <td>7,859</td> </tr> <tr> <td>高知龍馬マラソン(年度)</td> <td>4,949</td> <td>4,819</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(人)</p> <p>※サイクリング、トライアスロン、マラソン、ウォーキング、オープンウォータースイミング、カヌー、サーフィン、ゴルフ、クラシックカーを計上</p>	県外入込客数	H30	R1	R2	R3	R4 (11月)	D	自然環境を生かしたスポーツツーリズム(暦年)	18,486	18,021	5,503	2,637	7,859	高知龍馬マラソン(年度)	4,949	4,819	中止	中止	-	●本県の強みである自然環境を生かしたスポーツ情報の周知不足 ●高知龍馬マラソン2023の参加者確保、安心安全な大会運営(コロナ対策、ボランティア、協賛企業の確保等)
県外入込客数	H30	R1	R2	R3	R4 (11月)	D														
自然環境を生かしたスポーツツーリズム(暦年)	18,486	18,021	5,503	2,637	7,859															
高知龍馬マラソン(年度)	4,949	4,819	中止	中止	-															

令和4年度の取り組み状況

P 当初計画(今後の取り組み予定)	D 取り組み状況
(1) 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進 ① プロモーションサイト(webサイト)を新たに構築 ② 自然環境を生かしたスポーツ大会開催の支援 ③ サイクルスポーツの推進 ・JCL高知大会の成功に向けた関係機関との連携 ・ナショナルサイクルルート指定に向けた関係機関との連携 (2) 高知龍馬マラソン2023の開催 ・1万人規模の大会開催	(1) 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進 ① プロモーションサイトを新たに構築 ・プロモーションサイト立ち上げ(12/26) ② 自然環境を生かしたスポーツ大会の支援 ・スポーツ大会規模を幅広く支援することを目的に、KVCAが創設した自然環境を活かしたスポーツ大会支援事業(助成金)に「小規模大会事業枠(延宿泊数50~99泊)」をR4年1月に新設 ※ 当助成金の申請受付状況 R4年度4~12月(申請:3件、実績:3件) うち小規模大会枠分(申請:1件、実績:1件) ・高知仁淀ブルーライド(サイクリング)(5/29開催) ・四国・西南無限大ライド(サイクリング)(6/25、26開催) ・三市町合同グレ釣りダービー(11/1~1/5) 参考:R3年度実績(申請:1件、実績:0件) ③ サイクルスポーツの推進(再掲) ・JCL高知大会開催(9/25) (県外入込数:約380名) ・Setouchi Velo協議会に参加(10/29) (2) 高知龍馬マラソン2023の開催(R5.2/19) ・ランナー募集(9/16~10/16) ・ランナー2次募集(10/20~11/21) →フルマラソン参加者総数:8,007名 →ファンラン参加者総数:229名 ・青山学院大学陸上競技部ランニングセミナー(R5/2/18) 募集(一般枠) →参加申込み数100名

A 見えてきた課題に対する改善策	C 見えてきた課題
●自然環境を生かしたスポーツツーリズムの新たな計画・目標の検討 ●高知龍馬マラソンの周知の強化、経費削減などの見直し ●日本陸連のガイドランスや他大会の状況、国・県の動きを注視しコロナ対策を実施 ●次年度以降を見据えた高知龍馬マラソンの魅力ある大会づくりの検討	●今年度作成した新たなプロモーションサイトやJCL高知大会の成果等を次年度以降のスポーツツーリズムの取組に活かすことが必要 ●龍馬マラソン2023の参加申込数が当初の見込みを下回り、参加料収入が減少 ●コロナウイルス感染症の第8波が懸念されるなかでのコロナ対策のあり方

見直しの方向性	●地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進 ○WEBサイトを活用した情報発信の強化 ○市町村と連携したスポーツツーリズムの推進 ○サイクリングツーリズムの取組強化 ●高知龍馬マラソンの充実 ○高知龍馬マラソンの10回記念大会を契機とした大会の魅力づくり
----------------	---

3本の柱に横断的に関わる施策の方向性

参考資料

P56

事業実施計画（冊子）

P99

施策の方向性	(1) オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興	主要な取り組み	●オリンピック・パラリンピック等を通じて形成されたホストタウン登録国等とのネットワークを活かした交流事業
--------	----------------------------------	---------	--

事業概要	国際交流事業 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として構築したホストタウン登録国とのネットワークを活かして、将来を担う子ども達が夢や希望を抱いてスポーツに取り組み、県民の誰もがスポーツに親しめる環境づくりや、地域の活性化につながる取り組みを行う
------	---

令和4年度末の目指す姿	●オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、ホストタウン国とのスポーツ交流などが、県や市町村、関係団体等の事業として継続している ●聖火リレーが開催されたことで醸成されたスポーツ機運が継続している
-------------	---

令和4年度の到達目標	①ホストタウンの交流が、大会後のレガシーとして継続している ※令和3年度の到達目標に追加 南国市（シンガポール）
------------	--

R4年度の到達目標に対するR4年12月末の実績	●事前合宿：2カ国、5競技、58名の選手団の受入れ ○チェコ共和国：7月11日～30日／4競技45名（陸上14名、水泳14名、カヌー13名、ボート4名） ○シンガポール共和国：7月11日～20日／1競技13名（バドミントン13名） ●連携協定の締結 ○チェコカヌー協会－高知県カヌー協会 ○シンガポールスポーツスクール－高知県教育委員会 ○ソフトボールクイーンズランド（オーストラリア）－高知県ソフトボール協会 ○チェコソフトボール協会－高知県ソフトボール協会（協定締結予定） ●聖火リレー ・オリンピック聖火リレー：4月19日・20日／19市町村21箇所 ・パラリンピック聖火イベント：8月16日
-------------------------	---

課題	●各種交流の実施・継続に向けた調整や支援が必要
----	-------------------------

令和4年度の取り組み状況

P	当初計画（今後の取り組み予定）																			
(1) 第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会（令和5年7月開催）事前合宿の受入 ①チェコとの継続的な協議 ・合宿受入れに向けた継続的な協議（メール、オンライン） ②高知市、宿泊施設等との連携による受入体制構築 ・施設の利用調整 ③コロナ禍における事前合宿受入れに向けた対応 ・世界水泳選手権福岡大会事務局との連携による受入体制構築 ④練習相手の確保 ・競技団体や学校への協力依頼																				
(2) シンガポールスポーツスクールと県内学生とのスポーツ交流（卓球、バドミントン）の実施 ①シンガポールスポーツスクールとの継続的な協議 ・シンガポール訪問に向けた継続的な協議（メール、オンライン） ②競技団体、学校等との連携による訪問体制構築 ・交流内容及び参加者の調整																				
(3) ホストタウン交流に向けた支援																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>種目</th> <th>実施時期（予定）</th> <th>実施主体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">チェコ</td> <td>カヌー</td> <td>R4.8月頃</td> <td>高知県カヌー協会</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール</td> <td>R4.9月頃</td> <td>高知県ソフトボール協会</td> </tr> <tr> <td>オランダ</td> <td>サッカー</td> <td>R5.2月頃</td> <td>高知県サッカー協会</td> </tr> <tr> <td>オーストラリア</td> <td>ソフトボール</td> <td>R4.8月頃</td> <td>高知県ソフトボール協会</td> </tr> </tbody> </table>	国名	種目	実施時期（予定）	実施主体	チェコ	カヌー	R4.8月頃	高知県カヌー協会	ソフトボール	R4.9月頃	高知県ソフトボール協会	オランダ	サッカー	R5.2月頃	高知県サッカー協会	オーストラリア	ソフトボール	R4.8月頃	高知県ソフトボール協会
国名	種目	実施時期（予定）	実施主体																	
チェコ	カヌー	R4.8月頃	高知県カヌー協会																	
	ソフトボール	R4.9月頃	高知県ソフトボール協会																	
オランダ	サッカー	R5.2月頃	高知県サッカー協会																	
オーストラリア	ソフトボール	R4.8月頃	高知県ソフトボール協会																	
①補助金要綱の制定 ②各競技団体への支援 ・必要に応じた調整、協議																				

D	取り組み状況
(1) 第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会（令和5年7月開催）事前合宿の受入 ①チェコとの継続的な協議 ・メールによる協議、調整（随時） ※大会の延期が決定したため、次年度の受け入れに向けた調整	
(2) シンガポールスポーツスクールと県内学生とのスポーツ交流（卓球、バドミントン）の実施 ①シンガポールスポーツスクールとの継続的な協議 ・メールによる協議、調整（随時） ・今後の活動に向けたオンライン協議（11/16） ②競技団体、学校等との連携による訪問体制構築 ・必要に応じた協議、調整（随時）	
(3) ホストタウン交流に向けた支援 ①補助金要綱の制定（6/6） ②各競技団体への支援 ・必要に応じた調整、協議 ※オーストラリア（ソフトボール）、オランダ（サッカー）は中止 ・チェコ（カヌー）へ選手派遣（8/13～8/23） 選手1名、監督1名を派遣し、合同練習等を実施 ・チェコ（ソフトボール）の合宿受入れ（10/15～10/24） 選手16名、指導者5名を受入れ、合同練習等を実施	

A	見えてきた課題に対する改善策
●コロナ禍であっても交流が継続できるよう、相手国や競技団体にオンラインを活用した取組を提案	

C	見えてきた課題
●新型コロナウイルス感染症の影響で、事前合宿の受け入れや海外との交流実施にはまだ制限がある	

見直しの方向性	■スポーツを通じた国際交流の拡充 ○東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録国など、海外チームとの相互交流の拡充 ○今後国内で開催される国際大会に出場する海外選手団による事前合宿の誘致
---------	---